

たまな未来

熊本地震から1年、人と人とがつながり
玉名地域の未来を創造する

玉名地域の未来を創造する

丸光ホールディングス株式会社
代表取締役

一般社団法人 玉名青年会議所
第61代理事長

山田浩之 × 児玉陽一 対談

コッコロチキン玉名店 ～ 災害への意識向上に向けて ～

歌うママ防災士 柳原 志保 ～ 災害に備える ～

長洲町立長洲小学校 ～ 絆による地域ネットワークの確立 ～

目次

■玉名地域の未来を創造する

【熊本地震から一年、新たな地域活性化の可能性を創造】

丸光ホールディングス株式会社
代表取締役

一般社団法人 玉名青年会議所
第 61 代理事長

P-2 対談 山田 浩之 氏 × 児玉 陽一 君

■災害への意識向上に向けて

【熊本地震体験から災害を振り返り、災害への意識向上につなげる】

P-6 コッコローチキン玉名店

松下 瑞樹 氏

松下 亜希子 氏

■災害に備える

【東北から熊本へ、～今、私が伝えたいこと～】

P-8 歌うママ防災士

柳原 志保 氏

■絆による地域ネットワークの確立

【子どもと地域が共に歩む】

P-10 長洲町立長洲小学校

校長
甲斐 裕一 氏

教頭
上村 祐二 氏

コミュニティ・スクール推進教員
高森 秀一 氏

あとがき

はじめに

一般社団法人玉名青年会議所(玉名JC)では「奉仕・修練・友情」のJC三信条のもと「明るい豊かな社会の実現」を目指して、玉名地域を良い方向へ進めるために、まちづくり・ひとづくりに取り組んでいます。

熊本地震から一年。

玉名地域では被害が比較的少なかったものの、被災地への支援活動を通して、人と人とのつながりの大切さを学びました。

地域の皆様に災害に対する意識を向上してもらい、地域ネットワークの重要性を再確認していただくため、本誌「たまな未来」を作成しました。

少しでも私たちの故郷玉名に期待を持っていただき、玉名の未来がより良い方向へつながれば幸いです。

一般社団法人玉名青年会議所
地域ネットワーク委員会



プロフィール

丸光ホールディングス株式会社 代表取締役
熊本いづくに会 代表幹事
一般財団法人 創造くまもと 理事
一般社団法人 玉名青年会議所 第50代理事長

プロフィール

一般社団法人 玉名青年会議所 第61代理事長
有限会社 田邊工業所 代表取締役



玉名地域の未来を創造する

山田 浩之
Yamada Kouji

児玉 陽一
Kodama Youichi

熊本地震発災後の活動や展開について

児玉…2011年に発災した東日本大震災発災時から私たち青年会議所(以下、JCI)が災害時に行う活動の在り方を模索していましたが、昨年4月に自身が住み暮らす熊本で大地震が起こり、迅速な対処法を考えていなかったというのが残念だったと正直考えます。しかしそんな中でも、熊本県社会福祉協議会と災害支援の協定を結んでいた、公益社団法人日本青年会議所九州地区熊本ブロック協議会(以下、熊本ブロック協議会)と連携を図り、私たち玉名青年会議所(以下、玉名JCI)も災害支援としてのネットワークを活用しながら、即座に被災地へのボランティア派遣や地域で支援物資の集積とそこで集まった物資の供給を、震災が大きかった益城町を中心に自分たちで輸送できたことなど、少しでも熊本を守る行動が出来たことはうれしく思います。ただ、私たちも一被災者ということで、出来る部分と出来ない部分とで大きな差が生まれたことは事実でした。

山田…発災から4日後に交通網が遮断されて、菊水ICと南関ICしか機能しなく長い渋滞ができていました。私は健康近くにある物資収集所に行きました。そこでは指定避難所以外の避難所には荷物(物資)が入ってこない状況でした。指定避難所以外の避難所の状況を聞いて回っているグループがあったので、そのグループから依頼を受けて、被害が少なかった弊社(丸光ホールディングス本社)を、全国からの物資を運んで仕分けする収集所として開放しました。

児玉…玉名JCIとしても2日後には先輩の会社倉庫をお借りして、玉名地域の物資収集所を作り、そこから毎日何往復もしながら物資を運びましたが、玉名JCIメンバーにも熊本市に住んでいる人が数人いましたから全員が全員動けたというより、出来る形で精一杯の支援に取り組ませていただきました。

山田…行政では出来ないところや行政の手が届かないところを我々ボランティアがケアしていく状況でしたね。

児玉…私たちの団体はネットワークが軽かったのが、阿蘇・宇城・熊本市を中心に各地JCIが被災地のパイプ役となって色々な方のサポートや炊き出しなども出来たのではないかと思います。

地域ネットワーク(繋がり)について

山田…今回、被災地域には何度も足を運びましたが、うまく運営出来ている避難所と出来ていない避難所で格差がありました。知り合いがいらない人がリーダーになっても右往左往するだけで、ネットワークを持っていたり人との繋がりを持つている人がリーダーで居るところはどんな指示を出して動いていたりで、避難所の格差は酷かったです。

児玉…当然私たちの中でも、リーダーがいたからその指示の基に動けたのかなと思いますし、そこが組織の強みだと思います。逆に弱いところを挙げるなら玉名地域では個人個人のネットワークが強くはない印象を受けました。

山田…玉名の中でネットワーク(繋がり)というのは、いざという時にある人ない人で差が大きくでると思います。そして団体は数多くあるけど団体同士の繋がりが希薄だと思います。

児玉…そこも課題で、私たちJCでも他団体との連携が取れなかったところもあって、一人ひとりの連絡は取れても団体同士の繋がりが薄かったので、その強化が今後の大きな課題だと考えます。

防災意識の強化を、行政が中心になり強く発信され、各地でその運動が増えていけばいいと思います。防災グッズも必要ですし、一つの備えと防災意識の一環として必要不可欠な課題が多いですね。

山田…人間はその場に立ち会わないとその感覚というのは薄れていくいつ起こるか分からないから、だからこそ日頃の備えは大事ですね。



山田…今回の震災をまざまざと目の当たりに経験したからこそ、いかに日常での繋がりを持つかというのが重要なテーマだと改めて感じました。

児玉…私も次世代にしっかりと伝えて人と人のコミュニケーションの大切さを発信していくことが大事だと思います。今回の震災を経て初めて見えてくることがいっぱいありますし、震災から1年経った今、復興元年として今後のまちづくりへの足掛かりを考えていくことも、私たち青年会議所の担いであると考えます。

山田…業界団体というのは利益を目的とした団体だから、JCみたいな公益的なポジションでボランティア精神を持って地域のために、という目的を持った団体がそこを繋いでいく役割があり、とても重要だと思います。

玉名の地理的優位性について

児玉…私たちが住んでいる玉名地域というのは本当に恵まれていますね。新幹線駅があり、南関と菊水に2か所のIC、長洲港もあり、災害でいうと、ひとつの中継地点というより拠点として活用できます。

山田…震災後は復興復旧のために県外から来ている業者で旅館やホテルもいっぱいでした。

児玉…その経済効果はものすごくあったと思います。普段観光といったかたちで、あの集客率を寄せられれば、まだまだ地域の経済も色んなチャンスがあるのではないかと考えます。インフラが整っている分、その周辺開発が整っていない、その部分が今後の課題だと思いますし、経済活性化のキーワードだと思います。

山田…震災時感じましたが、国道は大渋滞で被災地に行くにしても3〜5時間かかるところを、玉名からは金峰山を越えることで1〜2時間くらいで行けるという地理的優位性があるから余計そう思います。

児玉…もう少し今後の開発計画というものを、おもしろい形で作っていかないといいですね。

防災について

山田…力を合わせるということの価値を日常でどう作っていくのか、ということが防災だと思います。地域の繋がりを作れたのは昔のお祭りやイベントだと思います。色んな人たちが協力してひとつのイベントをやり遂げるという、みんなで力を合わせてやることの象徴的なものだと思います。それが結果そういうことを日常的にやっていくことが防災に繋がります。だから防災というものを改めて意識して何かするのではなくて、それを踏まえた上で繋がりをどう作っていくのが大事ですね。

児玉…私もそう言う部分では、昔は隣近所同士でも「おはようございます」「ただいま」といった挨拶が普通にありましたが、この地域でも今ではその普通だったことが薄れてきたと感じます。山田さんがおっしゃるようなお祭りやイベントでは年数回開催されることにより、人がそこに集い、会話やコミュニケーションも生まれ、より良い人の繋がりが形成されていますしね。今後もう少し考えなければいけないのは、そのネットワークを活用して市民に向けた

おわりに

児玉…私たち団体もひとつの団体じゃなく、各種団体とも色んな繋がりをもちせていただいて、復興が進む中で、この地域の未来を描く話し合いを行いながら点を線で繋ぐようなネットワーク構築を行っていきたいと考えています。

山田…色んな繋がりが経済循環を起こしますしね。それがネットワークの強さなので、大切なのはいかにネットワークを作っていくかだと思っています。





地震で曲がった駐車場の柱

テント村など色々な避難所での生活の中でたくさん問題点がありました。県立体育館では震災直後、被災して使うことが出来ない避難所があったことも影響して、沢山の人が流れ込みました。避難者たちをどのように統括したらいいのか、まともな手だてやルールが無く、支援物資が平等に行き渡らず、松下さん家族は2日間食事を取ることが出来ませんでした。そんな中、区単位で構成された避難所などでは、区長さんを中心としたコミュニティが形成され、支援物資は平等に配布され、争いごともなく、食べ盛りの子どもたちには皆で協力してわけ与えるなど、地域で協力する体制が築かれていました。災害時に一番大切なことは人と人で支えあう地域コミュニティの絆だと感じることが出来ました。

地域の絆の大切さ



倒れた丸焼き機



被災時の松下さん自宅周辺

松下さんが商売を再開されるに当たり沢山の困難がありました。益城町の名物であるコッコローチキンが、なぜ玉名に。益城町では県道の4車線化など復興への計画があるものの目処が付いておらず、松下さん家族が生活する為には一刻も早い営業再開が不可欠でした。その中で人と人の繋がりに助けられ瑞樹さんの故郷玉名と繋がりました。コッコローチキンさんは益城で愛され、玉名地域でも地域に愛されるお店になりたいと新たに歩み始めました。熊本地震を振り返ることで、地震を経て学んだことを風化させず、災害への意識向上へ繋がって欲しいと思います。

玉名地域で再出発の決意



コッコローチキン新店舗



熊本地震体験から災害を振り返り

災害への意識向上につなげる

地震の体験から災害を知る

4月14日夜、亜希子さんはお子さんの習い事の迎えに出かけ、その帰り道の車内で地震が発生しました。今までに感じたことの無い大きな揺れに襲われ、車内のテレビにて益城町で震度7の地震が起きたことを知りました。益城町に近づくにつれ街灯は消え、電柱が倒れている箇所もあり、その時、亜希子さんの脳裏によぎったのは阪神・淡路大震災が起きた時の高速道路が崩れる映像でした。もしかしたら道路に地割れが発生し、橋が崩れているかもしれないと考え、連絡が着かない瑞樹さんと次女が待つ自宅に早く戻りたいという気持ちを抑えながら、慎重に進むことにしました。家に帰ると店舗のガスボンベが倒れ、瑞樹さんと近所の方が必死にガス漏れを止めようとしていました。懐中電灯などの非常用具を取りに自宅に入ると、部屋はほとんどの物が倒れ、何が

どこにあるのか分からない状況で、靴すら見つけることが困難な状況でした。翌日、自宅や店舗の状態を確認し、店舗は少し動いていたものの、この状態なら再建できると話をしていました。ところが翌16日深夜、予想もしていなかった大きな揺れが再び襲ってきました。1回目の地震よりも激しく長く揺れ、本震が発生しました。いざという時の為に、寝る前に枕元に準備していた靴と貴重品はどこかに消え、必死に探して家から出ました。自宅は地面に沈み段差ができ、家の前の駐車場には大きな亀裂が入り、駐車場の鉄骨の柱も曲がり、とても営業ができる状態ではありませんでした。その後、お店が心配だったため、家の前の空き地で車中泊をしていましたが、余震でどんどん道路の状況は悪化、家の近くにある橋は道路との段差が大きくなり、車が通ることが出来ないほどになり車中泊を断念せざるを得ない状況だったのを、今でも覚えています。



右) 松下 瑞樹 氏
左) 松下 亜希子 氏

益城の味として長年親しまれてきたコッコローチキン。若鶏の丸焼き専門店を益城町で経営してきた松下瑞樹さんと亜希子さん夫妻は熊本地震で被災され店舗と自宅が全壊したため、玉名市岱明町の新店舗で新たに歩み始めました。



ブラッシングの指導の様子



丸つけボランティアの活動



伝統行事「的ばかい」の学習

「環境美化応援団」では、心豊かな児童を育成するために、校区花いっぱい運動に取り組んでいらつしやいます。美しい色とりどりの花が咲いている環境は、児童の健全育成につながっているとのことでした。これら全てに共通するのが、地域住民が講師（応援団）となつて学校や児童たちと関わっていくということです。これからも、どんどん地域と関わっていくことで、地域全体で子どもを育てていくという意識に変えるとともに、子どもたちも地域の行事に参加・企画・運営など、関わるのが大切です。

昨年度は延べ5千人以上の方々が活動に参加されました。この活動を行うことで関わる大人にもメリットが大きく分けて二つあります。まず子どもたちと触れ合うことで生き甲斐づくりになります。そして活動に参加した方のアンケート結果によると、70%を超す人が生き甲斐を感じるようになったと回答をいただきました。さらに血圧が下がった、血糖値が下がったなど、健康面でも効果がありました。心が満たされながら体を動かす良い機会になっています。そしてもう一つが、ネットワークがつけられるということです。PTAや「的ばかい保存会」、見守り隊など年齢も活動内容も違う団体が集い、つながることができます。

地域とのつながりを大切にする

長洲小学校は今後、コミュニティ・スクールへの取り組みを推進することで、子どもたちは多くの学びや体験活動が充実することが出来ます。そして子どもたちとふれあうことで地域の方は生きがいを感じる事が出来るでしょう。保護者も地域の方と人間関係が構築でき、子どもたちが地域に育てられている安心感を持つことができます。地域との関係が希薄になっている今の時代こそ、人と人とのつながりがとても重要になってきます。長洲小学校の取り組みが大きな輪となり、その広がり様々な地域や団体につながる第一歩になればと思います。

長洲町立長洲小学校

子どもと地域が共に歩む

コミュニティ・スクール推進教員
高森 秀一氏校長
甲斐 裕一氏教頭
上村 祐二氏

地域とともにある学校づくりの推進

長洲小学校では、今年度の学校の基本方針を『ふるさとを愛し、夢の実現をめざす長洲っ子の育成』とし、地域とともに喜びにあふれ、活気ある学校づくりを進められています。今年度は、長洲町教育委員会が2年間のコミュニティ・スクールの導入等推進事業を文科省より受け、これまでの熊本県版コミュニティ・スクールをより発展・充実した「学校運営協議会」の設置を目指す取り組みを始めておられます。これからの学校は、学校教育を通してよりよい社会を創るという理念を持たなければなりません。学校は地域と連携・協働して、その理念の実現を図る努力をしていくことが大切です。長洲小学校では、これまで熊本県版コミュニティ・スクールの取り組みを通して、たくさんの方々の地域連携活動を行ってこられました。これらの活動を通して、学校と地域とのつながりは深くなり、毎日たくさんの方が学校に来校され、子どもたちも地域の方々に見守られ育っているという実感を強く持っているそうです。長洲小学校には、学校応援団として「安心安全応援団」「郷土のよさ理解応援団」「環境美化応援団」があります。

人と人がつながって コミュニティが創られる

「安心安全応援団」では児童が登校する際に安全な登校が出来るよう、校区見守り隊の方々が出発に立つなどして、サポートされています。児童が巻き込まれる事件や事故が全国で報道されていますが、長洲小学校では児童が安心して登校できる体制が整っています。「郷土のよさ理解応援団」では、児童が長洲町の伝統行事である「的ばかい」や伝統的な産業である金魚について学習する際に、講師として地域の方が訪れています。これは、地域と手を取り合い、ふるさとの伝統や文化を学ぶことを通して、児童にふるさとを愛する心を育むことを狙った活動です。



見守り隊の方々から挨拶表彰

～アンケートご協力をお願い～

たまな未来をお読みいただき、誠にありがとうございます。
本誌を読んでいただいた皆さまの意識がどのように変わったかを確認し
たく、アンケートのご依頼をしております。
ぜひ皆さまの貴重なご意見をお聞かせください。

※アンケートの回答は統計的に処理され、調査・解析に使用し、特定
の個人が識別できる情報として公表されることはありませんのでご
安心ください。

——アンケート回答方法——



左記の QR コードを読み込んでいただくか、
<https://goo.gl/forms/vK3K22eeXTgsp62z1>
にアクセスしていただき、
ご協力ください。

アンケート期間 6 月 7 日～7 月 31 日

回答へのご協力、心より感謝申し上げます。

たまな未来 インターネットページ

一般社団法人玉名青年会議所

ホームページ

<http://tamanajc.jp> で **検索**

一般社団法人玉名青年会議所

Facebook ページ

QR コード



あとかき

私たちは熊本地震を経て、玉名地域は比較的被害は少なかったものの、
災害で学んだことは多く、この災害で学んだことを風化させることなく、地
域をさらにより良いものにするために昨年から取材を行って参りました。

玉名青年会議所も被災地の支援活動を行いましたが、私たちの災害への
備えは不十分であることを痛感しました。被災地での悲惨な状況を目の当
たりにし、もしも今後、私たちの住む玉名で災害が起きた時、どのような
対応が出来るのかを考えました。そこで私たちが最も重要だと感じたこと
が人と人との繋がりでした。災害が起きた時、地域住民が先頭に立ち、と
もに助け合い、立ち上がらなければなりません。そのためには私達自身が
普段の生活の中で地域に溶け込み、ともに歩むことが大切です。人と人と
が繋がれば地域のネットワークが確立され、防災だけではなく、地域の活
性化にもつながると確信しています。

一人でも多くの方が地域と寄り添い、活動することで、私たちの故郷玉
名が安全で安心して暮らせる町になっていくことでしょう。

地域ネットワーク委員会一同



平成29年 6月7日 発行

発行者／一般社団法人 玉名青年会議所

印刷所／株式会社トライ

発行所／一般社団法人 玉名青年会議所

〒865－0051 玉名市繁根木94－3

TEL (0968) 74－2970

FAX (0968) 74－2950

【ホームページ】 <http://tamanajc.jp>

監修／2017年度 地域ネットワーク委員会